

# 児玉清さんを悼む

二〇一一年五月一六日、本誌の編集委員をお願いしていた児玉清さんが七七歳のご生涯に幕を引かれました。俳優として、エッセイストとして、名司会者として、読書人かつ書評家として、いずれも当代一流をきわめられた方の、突然の死でした。ご冥福をお祈りします。

本誌の連載企画「児玉清の書齋へようこそ」にお招きした方は、佐伯泰英（作家）

みらいなな（翻訳家）

リリー・フランキー（作家、イラストレーター）

池内紀（ドイツ文学者、エッセイスト）

福山雅治（シンガーソングライター、俳優）

小川洋子（作家）

海堂尊（作家）

佐々木譲（作家）

あさのあつこ（作家）

の九人でした（敬称略）。

文学や音楽や演劇に造詣の深い方々ばかりで、いつも話は多方面に飛び交いました。いきおい対談は予定時間をはるかに超え、文字どおり「尽きせぬ話」が毎回繰り返されたものです。

児玉さんは『知遊』での対談を、なるべくつぎの予定のないとき



にしたいとおっしゃり、ゲストとともに、内容の濃い対談を心がけてくださいました。

ゲストをお迎えするときは、さっと立ち上がって迎え、かならず上座にお座りいただく。そして対談が終わると、会場の玄関までお送りする。お相手が若い方でも、旧知の方でも、久しぶりの方でも、初めての方でも、児玉さんはそのスタイルを一度として変えることはありませんでした。

「私の書齋へようこそ」なのだから、お招きしているのは私のほうなのだからと、児玉さんはいつも謙虚でした。

児玉さんが三六年にわたって司会をされたクイズ番組で、緊張している出演者や視聴者の気持ちを解きほぐし、なごませ、番組終了後には出演者たちを見送ったそうです。長寿番組のかけに、児玉さんの無意識のうちに出てくる謙虚さとやさしさがあったことは否めません。

本誌での対談でも、すぐにお相手との息がぴったりと合い、たちまちくつるいだ空気が場に流れ、いつのまにか本音で話し始めているゲストがいました。

一〇人目のゲストも決まり、お招きする準備を進めていた矢先のご入院、そして、あまりにも急なご逝去でした。合掌

二〇一一年七月 『知遊』編集部



佐伯泰英さん



みらいななさん



リリー・フランキーさん



池内紀さん



福山雅治さん



小川洋子さん



海堂尊さん



佐々木譲さん



あさのあつこさん